

令和4年度

ブロック別研修会の取組 実践発表

～香美ブロック 香美市立なかよし保育園～

1 園の概要

- 園児数… 176名 ○クラス数… 11クラス
- 職員構成… 園長・主任(家庭支援・延長保育)(1)延長保育(1)・昼担(5)
フリー(5)・保健師(1)・調理員(6)・作業員(1)・パート(6)
- | | | | |
|---------|-------|-------|-------|
| 5歳児…すみれ | (1・②) | ひまわり | (1・②) |
| 4歳児…さくら | (1・①) | ゆり | (1・①) |
| 3歳児…もも | (2・①) | ばら | (2・①) |
| 2歳児…りす | (3) | うさぎ | (3・①) |
| 1歳児…あひる | (2) | ぱんだ | (2) |
| 0歳児…ひよこ | (1) | ※○は加配 | |

○めざす子ども像

- ・健康で元気に遊ぶ子ども
- ・よく見てよく考える子ども
- ・仲間を大切にする子ども

○保育目標

- ・心身ともに健康でお互いに認め合い発達しあえる仲間づくり

2 研修目標

「各年齢の発達を理解し、子ども達が主体的に生活や遊びを発展していけるような保育者の援助と環境構成について」

3 研修目標設定の理由

本園の子ども達は元気があり、やる気や友だちに気遣いのできる姿、興味をもって生活や遊びを送っている姿が見られる。反面、個々の発達にばらつきがあり、発達等の弱さに加えてコロナ禍で他のクラスとの交流や関わりがなくなり、見て育つことがより難しくなった。そのため、自分で考え、遊んだり行動できたりする主体性を育てていきたい。

4 年間取組内容

- ◆ 4月・・・今年度の研修目標の決定と年間計画の作成
- ◆ 5月・・・1年間の研修の方向性についての情報共有
- ◆ 6月・・・3歳児事例研修と協議
- ◆ 7月・・・2歳児事例研修と協議
- ◆ 8月・・・5歳児公開保育と協議
- ◆ 9月・・・2歳児公開保育と協議
- ◆ 10月・・・親育ち支援研修と協議
- ◆ 11月・・・公開保育(幼児3、4、5歳児クラス)と協議
- ◆ 1月・・・3歳児公開保育と協議
総括・次年度に向けての計画作成
- ◆ 2月・・・13ブロック交流会参加

5 成果

①子どもの姿の変容

- ・楽しい遊びや工夫して遊んでいる友達の姿をクラスの中で伝えたり、教え合える場を設定することにより、遊びが発展していき、より楽しく意欲的に遊ぶことができるようになった。
- ・自分たちで考えて行動できるように、まずはやってみる、友達と助けあったりつながれるよう（グループ活動をしたり、主体的な行動ができるような声かけ）に援助することによって、主体的に（失敗してもやってみる姿・自分で考えて行動する姿）活動できるようになった。
- ・自分の思いを言葉で言えるように、保育者が子どもの声を聞いたり、言葉を足していく中で、友達や保育者に自分の思いを言葉で伝え、困った事があると助けを求めることができるようになった。
- ・何事も保育者に聞かないと行動できない姿があったが、子ども達が悩んだり、どうしたら良いか分からないことがあるときにはみんなで考える時間を作ったり、教え合える機会を増やしたことで、主体的に行動することや意欲的に取り組む姿が見えだした。
- ・子どもの気付きを見逃さずに受け止め、声をかけていくことで周りの子どもにも広がり、新たな発見や子ども同士のやりとりにつながった。
- ・園庭の玩具などを精査したことで、子ども達が自分の欲しいものを選びやすくなり、自分から欲しい玩具を積極的に取りに行く姿が多くなった。

5 成果

②研修体制に関わる内容

- ・他のクラス、学年との交流が少ない中で、他のクラスの保育を見ることができ、どんなことをしているのかを知ることができた。
- ・日頃の保育について考えるきっかけになった。
- ・他のクラスを見ることができたり、保育士の話を聞くことができてよかった。
- ・職員全体の思いを一つにして、園全体で同じ目標に向かっていくことが難しかったが、日々の保育を振り返り話し合う機会をもてるようにしていきたい。
- ・園内研修、公開保育ができた学年、クラスでは学びを实践することはできたが、それを園全体で日々の保育に取り入れていくことができなかったため学年会などの時間をもつようにしていく。

5 成果

③保育者の意識や保育実践の変容

- ・心に余裕をもって一人一人と丁寧に関わる。
- ・他クラス保育を見ることで自分の保育を振り返り実践に活かせるヒントを得ることができた。
- ・子どもの姿を見て職員同士で話すことで保育の中で大切にしたいことを共有できた。
- ・保育士のかかわり方等を共有し、学び合うことができた。
- ・他のクラスの保育を客観的に見たり、保育実践を行うことで日々の保育では気付けないこと等に気付いたり、協議でアドバイスを受けたことを実践に活かすことができた。
- ・子どもに寄り添った保育の見直しと進め方を考えていけるようになってきた。
- ・子どもの気付きを見逃さず声を掛けていくことで、新たな発見や子ども同士のやりとりにつなげることができた。
- ・子ども一人一人を丁寧に見ることで、子どもの好きな活動を知ることができたり、子ども達が自分で考え工夫して遊んでいる姿を見ることができたりした。

5 成果

④公開保育を行って

- ・コロナで研修が小規模になったり他園から見に来てもらうことなどはできなかったが自分たちが学び合える場になった。
- ・年長児の保育を見ることができ、今後活かしていけるような発見や学びがあった。
- ・公開保育を行ったことで自分の準備した教材準備の不十分さについて知ることができた
- ・協議をすることによって実践者が、他の参加者からの自分とは違った視点での気づきを知ることができた。

6 来年度に向けて

①子どもの姿から、さらに伸ばしていきたい力

- ・ 5歳児が就学を楽しみに期待をもちながら、色々なことに挑戦し失敗を恐れず楽しい園生活が送れるようにしていきたい。
- ・ 生活の中で難しいことなどもあるが、挑戦しようとしたり難しいことにも意欲的に取り組む力を身に付けていけるようにしていきたい。

②研修体制・保育実践・保育の質に関すること

- ・ 子どもをよく見て、状態や興味・関心がどこに向いているかをしっかりと理解した保育の計画を立てて保育していく。
- ・ 一人一人の子どもへの思いによりそう声掛けをしていく。
- ・ 研修に参加できなかった職員を含む園全体での保育内容、及び情報の共有
- ・ 環境構成、子どもが使いやすい教材選び、及び教材研究の工夫
- ・ 乳児から幼児までのつながった保育、及び発達学習と子どもの姿について共有し、園全体で保育を考える体制づくり。
- ・ 支援の必要な子どもが多かったり、手立ての仕方も人それぞれあることを考慮しつつ、主体性を大切にするにはどうすれば良いかを協議していく。
- ・ 保育者が先に何でもやってしまうということがあるので子どものできることを見付け、育てていくことにつなげていく。